

# 石山・芸術の森地域 石山部会 ニュース

石山・芸術の森地域では、平成 26 年度に「石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会」を設置し、地域の 4 小学校を対象に学校規模適正化についての検討を進めてきました。平成 27 年度からは「石山部会（石山小学校・石山南小学校）」と「芸術の森部会（常盤小学校・石山東小学校）」に分かれて、より具体的な検討を進めています。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

本号では新設校の校名の選考状況をお知らせします。今回の部会では、子どもたち・保護者・地域の方のご意見等、全てを踏まえて検討を行いました。次回の部会で校名を「最終決定」いたします。ぜひ、ご一読ください。

## 第 11 回石山部会について

平成 29 年 6 月 29 日（木曜日）午前 10 時 30 分から、石山まちづくりセンターで第 11 回石山部会を開催し、校名案を検討しました。また、市から石山南小学校の跡活用に関する方針について説明がありました。

## 地域の皆さまから寄せられた意見（報告）

※第 10 回部会（3 月開催）以降に寄せられたご意見です

地域からのご意見について事務局から 7 件の報告がありました。

- 真駒内地域に通級指導教室がある。新設校にもぜひ設置してほしい。（平成 29 年 4 月 電話）
- 真駒内の「みなみの杜高等支援学校」は平仮名がとても柔らかく、優しく、温かく感じられる。また、南区の地区センター名は平仮名が多いことから、石山地区の新設校と複合化される施設も平仮名で「いしやま」と付けてはどうか。（平成 29 年 4 月 FAX）
- 小学校を統合するにあたり、石山南小の子どもたちにも、石山児童会館をもっと利用してほしいと思う。（平成 29 年 4 月 電話）
- 平成 30 年度から石山小の敷地に仮校舎が建設され、石山南小の児童も通う予定と聞いたが本当か。また、統合で通学距離が延びる場合、交通費の助成はあるのか。石山通は交通量が多く危険な箇所もあるが、通学安全対策はされるのか。（平成 29 年 5 月 電話）

### （事務局回答）

仮校舎は建設せず、新設校を平成 31 年 4 月に開校する予定です。また、通学距離が 2 キロを超える場合は、通学定期代が助成されます。なお、通学安全については今後検討予定です。

- 統合後も、同じ地域の子どもとして仲良く学校に通ってほしい。地域の考えもくみつつ、理解し合いながら統合を進めてほしい。
- 通学については、やはり石山 1 条 5 丁目付近の三差路が危険だと思う。小学 1 年生では渡りきれないのではないかな。
- 石山小に「開校 119 年」との看板があるが、地域全体の歴史を表す「石山開基 144 年」との掲示をしてはどうか。新設校になっても、歴史は続いていると分かるのではないかな。

- 少年団等でスポーツをする子どもたちのために、石山南小のグラウンドを残してほしい。近隣に大きな公園もなく、子どもたちの体力向上のためにもグラウンドは貴重だと思う。
- 石山南小の跡活用に関して、2～3教室分を使って「石山歴史博物館」を整備すれば、歴史を大切にしている方々も納得できるのではないか。  
(平成 29 年 5 月 メール)
- 部会の委員構成を見ると、石山小の同窓生があまりに多く、石山南小の同窓生が少なすぎると思う。
- バス通学等を考えたときに、石山小の敷地を活用するのはやむを得ないと思うが、過去に札幌市が石山小のグラウンドを買い増したことなどは、統合の布石とも感じる。  
(平成 29 年 5 月 電話)

## 校名説明会で寄せられたご意見について（報告）

※ご意見を要約して掲載しております。  
ご出席いただいた皆様、本当にありがとうございました

5月20日に開催された「石山地区における校名検討に関する説明会」で寄せられたご意見について、事務局から以下の報告がありました。

- 公募の際に応募もあることから、「石山小」でいいのではないかと。
- 「新しい校名」を付けるという前提に立つから、地域の意見がまとまらないのではないかと。本来の学校の在り方や目指す姿を考えていけば、おのずと校名は「石山小」になるのではないかと。
- 実際に学校に通い、学校を作り上げていくのは子どもたちである。そこを重視すべきであり、そのために「新しい校名」が必要である。
- 現校名を使用することにより、いじめ等を心配する声も聞くが、その意識は親の教育によって解消される。それにより、石山南小の子はむしろ、「石山小に通えてよかった」と思えるのではないかと。
- 子どもは自分で実際に見たもの・聞いたものを信じるため、大人が言い聞かせるだけでは理解できないことがある。校舎や校名が新しくなることが、子どもたちにとって一番分かりやすい。
- 校名の検討に必要なのは「子どもたちのために」という観点だけだと思ふ。石山であれば、「歴史を引き継ぐこと」「新しい学校づくり」等の観点は地域の協力により補えると感じる。
- 説明会への検討委員の参加が少ないことが残念である。検討するにあたって、地域の声を直接聞いてほしかった。
- 保護者としては、校名を早く決定し、通学安全等を検討してほしい。

## 新設校の外観の色彩等について（報告）

教育委員会学校施設課施設整備係から、以下の説明がありました。

- 新設する小学校、児童会館、まちづくりセンターの各玄関部分等に札幌軟石をあしらう。
- 石山地区の街並みと調和し、軟石の風合いが感じられるよう、白や灰を基調とした、落ち着いた色味の校舎とする。

## 検討事項

### ◆今年度の検討スケジュールについて

事務局から、以下の説明がありました。

- 年4回（6月・8月・11月・来年1月）の部会開催を目指す。
- 校名は、昨年度の決定事項を踏まえ9月から開かれる札幌市議会での正式決定を目指す。また、石山南小の跡活用について、継続して検討を行うとともに、通学安全等の検討を開始する。
- 10月頃に新設校の工事内容に関する説明会を予定している。

### ◆石山南小学校の跡活用に関する検討の方向性について

※時間が限られていたため、詳細な検討は次回以降となりました

まちづくり政策局都市計画部から、以下の説明がありました。

- これまでの地域活動を可能な限り維持できるよう、市としても跡活用を検討している。
- ただ、札幌市が施策として跡施設を保有・活用する予定はなく、施設の管理運営費を補助する等の財政的支援も困難である。
- もみじ台地域の事例では、地域貢献活動の実施を売却条件としており、取得した民間事業者が体育館等の運営を行っている。

#### <札幌市としての跡活用の基本的な考え方>

地域貢献活動の実施を条件として、民間事業者への売却

地域貢献活動の具体的な内容を、次回以降の部会で検討していきたい。

## 委員意見など

### ◆今年度の検討スケジュールについて

委員から以下のご質問、ご意見がありました。

- 概ね事務局案のとおりでいいのではないかと。校名については今まで十分に時間を掛けて検討したと思う。
- 開校も差し迫っていることから、保護者としては通学安全等について早く検討したいと思っている。

### ◆新設校の校名について

- あくまで部会の検討状況を伝える説明会ではあったが、そこで寄せられた意見も受け止めた上で、改めて話し合うべきではないか。
- 自分の母校が統合により吸収合併され、校名の残った学校の児童が優位に立つことが実際にあった。今回は吸収合併ではなく、対等な統合である。だからこそ、「新しい校名」が必要であると強く感じる。
- 当初、校名は「石山小」でいいと思っていたが、子どもたちのことを考えたとき、「新しい校名」が必要だと考えが変わった。正直、「石山小」への思いも3割くらい残っているが、せつかく子どもたちが前向きに校名を考えたのだから「新しい校名」にすべきだと思う。
- 校名の決定により地域から改めて様々な意見が出ると思う。卒業生の思いを受け止め、新しい学校にどのように活かすかを検討したい。
- この部会の重み・責任を改めて感じる。私たちの出した結論が、この先の未来にずっと残ることを認識しながら進める必要がある。

- 校名を公募したことが混乱を生んだのではないか。新設校は石山小の敷地に建つので、校名も「石山小」でいいと思う。
- 正直、石山小の同窓生として悩むこともある。地域の方から石山小の歴史や思いについて何度も説明され、「新しい校名」に変えることへ申し訳なさも感じる。しかし、石山南小の保護者・同窓会から話を聞いて、納得するところが多々あった。様々な立場の方の意見を聞くことで分かり合えることはあると思う。
- 両校を閉校し、平等に統合するという原点をしっかりと覚えてほしい。石山小と同じく、石山南小にも校名を残したい気持ちがある。
- 「石山小」の存続を求める声が多いのは、同窓生が多いのだから当たり前である。そもそも、新しい学校・校名にすることを前提に、石山小の敷地への建設を決定した。現校名が話題になること自体が遺憾であり、校名が石山小のままならば統合に反対である。
- 石山南小では児童から「自分の学校はなくなるの？」という声や、保護者から通学距離や通学安全への心配の声も聞かれ、統合にあたっての負担が大きいと感じる。様々な要因により、石山小の敷地に新設校を建設するのは理解できるが、少なくとも2校の児童を同じスタートラインに立たせてあげたい。
- 石山小の旧職員であり、閉校に寂しさもある。他地域で統合を経験したが、そのときは既存校舎を使用したため、一方の子どもだけが全く新しい環境になってしまった。そこで両校が対等になるよう、学校中の旧校名を全て消す等、最大限の配慮をした。教育環境を思えばこそその統合という決断であり、子どもの間に優劣を生むようなことがあってはならない。「新しい校名」は必要だと思う。
- 歴史や思いを「失うもの」ではなく、大切にしながら新しく「積み上げていくもの」と考えたい。様々な思いがあり、意見がまとまらないのは当たり前だが、子どもたちは皆「新しい学校」に向かっている。地域全体で子どもたちの思いを支えてほしい。
- 石山南小では、子どもから「今のままだいい」という声も聞く。保護者には学校が近いことを理由に家を購入した人もいる。しかし、新しい校名を考え、新しい通学路を歩き、前向きに取り組んでいる親子もたくさんいる。子どもには閉校を後ろ向きなものではなく、今まで育ててくれた学校への感謝の気持ちを学ぶ機会にしてほしい。
- 統合でもめたという話は全国にあるが、大好きな石山では聞きたくない。「石山の長い長い歴史の中で統合や閉校があり、それを機にさらに強い絆や団結が生まれた」と未来の子どもたちに語り継いでいきたい。この地域の団結力を尊敬している。どうか、新設校にもその力や思いを向けてほしい。
- 地域の意見を受けては検討を繰り返し、その都度「新しい校名にする」と決断してきた。同じ検討を続ける時間はないと思う。
- 石山小同窓会から「最低限、校名に地域名である石山を付けてほしい」との要望書の提出があった。その点は部会も同じ考えである。

- 子どもたちの将来を考えた際に「新しい校名」が必要となるのは、この部会の共通した認識だと思う。しかし、石山の今日に至るまでの歴史等を考えたときに、「地域への思い」と「子どもたちへの思い」の間に、結果としてズレが生じることもある。そこを解消できるのは、「地域名である石山を冠した校名」にすることだと思う。

- 校名について、本当に熱心に検討を続けてきた。われわれも簡単に「新しい校名」と言っているのではなく、地域の思いを受け止め、悩み抜いた上での決断であるということが伝わればよいと思う。

## ◆校名の選考について

- 多数決ではなく、話し合いで全員が納得できるような方向にしたい。
- これまでの1年以上の検討を踏まえて案を整理する必要がある。「子どもの未来」「歴史」等の要素が多く詰まっているのは『石切山小』『石山中央小』『石山軟石小』『石山緑小』『石山未来小』だと思う。
- 校名には地域名である「石山」を付けようと決めたところであり、『石切山小』は石山の間に入っている。
- 「石切山」は駅名であり、子どもたちも地域の方からの授業で「石山」と「石切山」は違うと教わっている。「石切山」は学校等で歴史の1つとして伝え続けてほしい。
- 児童の応募数を考えたときに、やはり『石山緑小』は候補にしたい。
- 「石山中央」は、地域の中心になってほしいという理由が良い。地域に同じ名前のバス停があるため、会館やまちづくりセンターの位置を思い浮かべる人が多いかもしれないが、バス会社に依頼すればバス停名は変更できるのではないかな。
- 最終候補を『石山中央小』『石山軟石（石山なんせき）小』『石山緑小』『石山未来（石山みらい）小』とし、次回最終選考を行う。

## ◆石山南小学校の跡活用について

- 体育館は利用者も多く、地域では利用を継続したい旨訴えてきた。地域が管理すれば、人件費も掛からず採算がとれるのではないかな。
- 地域の体育振興会が、市の助成を受けて運営することはできるのか。

### (まちづくり政策局回答)

市が保有する見込みがないことから、誰が施設を保有するかという課題があります。また、市からの補助金についても財政的に難しいことから、地域や体育振興会での自主運営は困難と考えています。このため、地域の要望をもとに条件を設定した上で、民間事業者への売却を考えています。

- 事業者を公募する際に交渉の余地はあると思う。この地域の活動や思いを受けてくれるような事業者が選定されればよい。

- 石山にはまちづくり協議会があって、本当に努力してくださっている。今回部会だけで決めるのではなく、協議会等にも相談するなど、周りの意見を聞いてから、検討していきたい。

### (まちづくり政策局回答)

今回の部会で決定したいとは考えておりません。今年度1年を掛けて検討していきたいと考えていますので、次回部会で改めてご説明いたします。

## 今年度の委員一覧

今年度の石山部会は、下表の28名で運営していきます。

(敬称略)

団体名	氏名	氏名	氏名
石山地区 町内会連合会	【部会長】福士 昭夫 (会長)		
	阿部 和一 (副会長)	五十嵐 敏明 (副会長)	伊藤 和江 (女性部長)
石山地区 まちづくり協議会	土井 満洲男 (まちおこし部会)	寺田 政男 (福祉部会)	小川 洪充 (青少年・子ども部会)
	稲葉 泉 (スポーツ部会)	宮下 進治 (事務局)	吉山 直子 (まちづくりセンター係)
石山小学校PTA	小野寺 崇 (会長)	武田 敬子 (副会長)	高橋 祐子 (副会長)
石山南小学校PTA	河井 裕司 (会長)	中川 亜希子 (副会長)	高橋 亜紀 (副会長)
学校長	萬 智子 (石山小学校)	三木 直輝 (石山南小学校)	
石山商店街振興組合	小島 浩正 (副理事長)	古内 一枝 (常任理事)	
石山小関係者	吉田 健一 (同窓会長)	佐藤 正 (同窓会幹事)	上野 まどか (元PTA会長)
石山南小関係者	大塚 英夫 (前PTA会長)	芦田 由美子 (元PTA会長)	高橋 恵美子 (学びのサポーター)
有識者	大室 道夫 (幌西小学校校長・統合経験者)	北嶋 雅見 (同会)	

## 決定事項

第11回石山部会では以下の方針を確認しました。

地域の思いを受け止めつつ、子どもたちの平等なスタートのため、**地域名の「石山」を冠した新しい校名**とする。また、両校の歴史を継承できるよう工夫をしながら、学校や保護者、地域で協力して、新しい学校を作り上げていく。

校名案は

- ・石山中央小学校
- ・石山軟石（石山なんせき）小学校
- ・石山緑小学校
- ・石山未来（石山みらい）小学校

を候補とし、次回部会で最終決定を行い、教育委員会に対して「意見書」を提出する。

## 第12回の石山部会 について

第12回の石山部会は、校名の最終決定と、石山南小の跡活用検討の方向性を議題とし、8月頃に開催を予定しています。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局  
 札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)  
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル  
 TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837 / E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp  
 ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>